

日 時：平成 26 年 9 月 1 日（月）18 時 30 分 ～20 時 10 分

場 所：石郷多目的研修集会施設

対象町会：石郷

参加者：28 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○水路について (市民からの要望、質問)</p> <p>六羽川に通じる幹線水路について、大雨の際に溢れてしまった。平川土地改良区で水土里ネット事業を活用し、5年の計画でやっていると聞いているがいつになればやるのか。今の水路は、流れは良いが狭い。上流部、下流部を工事しているが真ん中のところが工事されておらず、大雨の際に溢れてしまう。工事をスムーズにやれないものか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平川土地改良区で水土里ネットの事業を利用し整備していると思うが、改良区と話をしてみないと何とも言えない。計画がどうなっているのかを調べてみないといけない。</li><li>・柏木町でも水路が溢れ困っている。水路の先で、水が抜ける経路がないということが問題である。現場を確認し、土木課とも打ち合わせをし対応策を練っているところである。</li><li>・一番弱いところから対応していかないといけない。</li><li>・改良区に確認をし、町会長に連絡する。</li></ul>
<p>○介護保険について (市民からの要望、質問)</p> <p>平川市の老人ホームで、入所待ちの待機者は何人居るのか。また、認知症の人は市内にどのくらいいるのか。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・老人ホームの待機者が居るのは確かである。介護保険制度の当初の目的は、在宅で介護してもらうことであった。しかし現代、家の人みんな勤めていれば在宅での介護は難しい。自宅で介護をするとなると、仕事を辞めなければならないということもあり、施設介護が求められてきた。</li><li>・平川市は施設の数が比較的多い方である。それでも需要に対して供給が足りないというのが現状である。施設を増やせば増やすほど、介護保険料が上がっていく。どこまで施設介護を行っていくのかは全国的な課題である。地域で考えていくことも大切だが、国が主体となり考えていかないと抜本的な解決にはならない。</li><li>・県で特養の待機者を調査している。入所希望者は何箇所にも申込みをしており、重複者を外せば、100名ほどの入所待機者がいる。要介護3以上の人で、待機者が100名ほどである。国の方でも要介護3以上でない、施設には入れないという基準である。</li></ul>

- ・ 3ユニットで 29 名の特養施設を一つ作れば年間 1 億円の給付費がかかる。これが全部皆さんの保険料に跳ね返ってくる。
- ・ 要支援の方については、介護保険から外し、自治体で対応するようになると変わってきている。事業をどのように展開させていくかを、非常に悩んでいるところである。要介護に関しては、今年で第 5 期の介護保険計画が終わる。次の第 6 期計画の最終年までには、市町村できちんとした形態を作らなければならない。今年度中の計画策定に向け、今ちょうど検討しているところである。
- ・ 認知症については、判定が難しいところである。認知症により介護認定を受けている方の人数の把握はできているが、それ以外もとなると難しいところである。認知症サポーターを養成しており、一般の方に認知症を理解していただけるよう講習会などを実施している。
- ・ 先月から、平川市、黒石市、田舎館村の広域で認知症の方の徘徊者に対する事業を実施している。この事業は申請制度であり、認知症とのことで市に申請、登録が必要である。登録をすれば警察にも情報提供をし、広域で対象者を見守っていこうという事業である。市で登録している人が今、1 名である。今後登録しようという方もいる。

○健康づくりについて

(市民からの要望、質問)

健康づくりが話題となっている。平川市では、どのような取り組みを考えているのか。スローピング、てんとうむし体操などやっているが、事業がスポット的、単発的である。裾野が広がるようにしないといけないのではないか。

(市の回答)

- ・ 高齢化社会になっていく中であって、健康で長生きすることが望ましく、多くの方が健康であれば医療費の削減、介護保険料も下がってくる。健康づくりをどのようにするのかを一つの課題として、健康寿命のアップということで進めさせてもらっている。
- ・ 食生活と運動を連動させないといけない。今進めている事業が単発的とのことであつたので、どのようにすれば市民の方々が参加でき、健康アップに繋がるのかを考えさせていただきたい。
- ・ 介護予防の事業、健康づくりの事業もやっているが分かれてしまっている。
- ・ 介護予防の事業では、介護度をチェックしてそのレベルに応じた事業を行っている。介護度が高い人などは、口腔ケアの講習などの各教室を開催している。
- ・ 健康づくりについては、広域で行うにはどのようにすれば良いのかを、長野県の先生を講師に招き、保健師が勉強をしているところである。
- ・ 今年度、健康推進課で健康づくりを行う町会等に対し 10 万円を補助する事業をやっている。対象となる経費は講師代、減塩の料理教室の材料費など、健康づくりに要する費用が対象である。自分たちの食糧費は対象外である。まだ、2 団体分の空きがあるので検討させていただきたい。

○伝統芸能について

(市民からの要望、質問)

市内には荒馬、獅子踊り、世界一のねぷた等の伝統芸能があるが、市では伝統芸能を将来に残していくように考えているか。石郷に40年位前に撮った8mmのフィルムがある。これをDVDに置き換えるなどできないものか。DVDに保存し、図書館などに保管し貸し出すなどの対応はできないか。県外に行っている人でも、伝統芸能の映像を見たいという人がいると思う。そのような人たちへの対応も考えて欲しい。

(市の回答)

- ・伝統芸能を残し、続けていくことが望ましい。
- ・獅子踊保存会は市内に6団体ある。休みの日に競技会をやったが、人が揃わないことから参加したのは4団体であった。小学生の頃から教え育てているが、子ども達が成長し県外へ出て行ってしまうこともあり、後継者を育てていくことが課題である。
- ・ねぷた祭りについてはDVDを作成し販売している。獅子踊りや荒馬については、大会等で撮影をしていけば記録として残っていくと思う。市でやるべきか、保存会にお願いするべきかを検討しないといけない。
- ・伝統芸能は、教育委員会でDVDに記録を残している。国、県の事業を活用し、記録を後世に残そうと実施している。過去の歴史まで振り返って、8mmビデオを新たにDVDに残すことについては、検討させていただきたい。
- ・市民に貸し出したり、県外に住む方が故郷を思い起こすために貸し出しできるかについても考えてみたいと思う。

○通学路、防犯灯について

(市民からの要望、質問)

石郷から柏木小学校までの通学路は、川がたくさんあるうえに道幅が狭い。また石郷に街灯が少ないと思う。

(市民からの要望、質問)

歩道を作られないか。対面通行もできないような道路である。農道がそのまま通学路となっている。

(市民からの要望、質問)

町会要望としても出している件である。

(市の回答)

- ・教育委員会として、通学路の指定はしていない。地域、父兄、学校側で安全で近い経路を通学路としている。
- ・通学路でもあることから拡幅してほしいとの町会要望は以前からあった。要望箇所は距離が長く、道路拡幅に伴う事業費が多額であった。長期計画にも上げているが、優先順位が低く事業実施に至っていない。
- ・通学路の防犯灯は確かに少ない。
- ・通学路の拡幅に関しては持ち帰り、長期計画の中での状況を確認する。どのような対応

ができるのかを検討したい。子どもたちが安心して、安全に通学できる環境を作らなければならぬと思っている。

- ・通学路の街灯、防犯灯は安全、安心のために必要な要素である。
- ・来年度、市内 4,000 箇所ほどある街灯、防犯灯を LED 化する予定でいる。石郷町会だけでなく他の町会からも街灯、防犯灯が少ないとの意見をいただいている。このことも含め、対応策を考えていく。

○小学校の統廃合について

(市民からの要望、質問)

柏木小学校と大坊小学校との統廃合の構想はあるか。

(市の回答)

- ・大坊小学校の生徒数が少なくなってきたはいるが今、統廃合するという構想はない。
- ・大坊地区での懇談会では、大坊小学校を残してほしいとの意見が出ていた。人が定住する環境を作ってほしいとの意見があった。
- ・今年度から第 2 子から保育料無料化を実施している。他にも医療費を就学前まで無料化としている。
- ・住宅建築時の補助も実施している。住宅補助では現在 50 件ほどの申込みがあり、県外からの申込者もいる。
- ・住み良い環境、また地価が安いこともあり、松崎、大光寺、石郷でも住宅が増えている。

○防犯上の危険箇所について

(市民からの要望、質問)

小学校の通学路で木に覆われ、中が見えない危険な箇所がある。六羽川の手前であり畑だと思いが、何か対処できないものか。

(市の回答)

- ・個人所有の土地なのか。現場を確認する。

【交通防災係にて所有者に連絡】

9 月 5 日現在、所有者が立木伐採済。

○ひとり親への補助について

(市民からの要望、質問)

第 2 子から保育料を無料化したとのことであったが、ひとり親世帯には補助はないのか。保育料の算定も、同居家族と合算し保育料を支払っている。

(市の回答)

- ・医療費の補助は現在も実施されているが、ひとり親への新たな補助を実施するとなれば、その費用は全て市の持ち出しとなる。この場でやる、やらないとは回答できない。意見として伺っておく。
- ・平川市の特定出生率は、青森県が全国と比較し低い中であって、県よりさらに低く 1.28

くらいである。

・国、県の支援では第3子から保育料を無料化としていた。第2子から無料化とすることで、若い夫婦が二人目も子どもを産みたいという思いになってもらえればとの思いから実施した。今年度の対象者数は保育園児で209名、幼稚園児で25名であり、これにかかる経費は年間7,400万円ほどである。経費はかかるが、2人、3人と子どもを産みたいとの思いになってもらえればとの願いがある。

・ひとり親家庭に対しての補助も全てやるとなれば、社会保障費がどんどん増えていく。  
・少子化対策は国をあげて取り組まなければならない問題ということで、県出身の国会議員との会合の場でも話をしている。

・日本全国が人口減少社会に入ってきており、平川市も例外ではない。現状で市内に暮らす人が安全、安心に暮らせるよう対応させていただいている。

○総合運動施設について

(市民からの要望、質問)

総合運動施設の整備計画を知らせてほしい。2、3年で工事するのか。野球をしているグラウンドはどうなるのか。

(市の回答)

・当初は今年から工事をする計画であったが、まだ工事はしていない。駐車場の件があり整理させてもらった。

・計画では400mのトラックと多目的広場を作る計画である。

・平賀グラウンドについては、マイクロニクスに駐車場の代替として売却する計画である。先般の市議会臨時会において教育財産から普通財産とする条例を可決いただいた。次の定例会において、普通財産の財産処分の議案が可決されれば、平賀グラウンドの土地をマイクロニクスに売却する計画である。

・平成27年度、28年度の2年間で、ひらかドームの東側に運動施設を整備する計画である。当初の計画より1年は延びる。

○滞在型のスポーツイベントについて

(市民からの要望、質問)

体協、教育委員会、行政が一体となり滞在型のスポーツイベントをやれないものか。今でもソフトボールの県大会を実施しているのだから、選手が2、3泊するような東北大会のような大会を実施できるような施設にしてはどうか。弘前市などの施設は、土日はさまざまな大会で埋まっている状況である。

(市の回答)

・滞在型となる大会に、どのような大会があるのかを調査してみないといけない。ソフトボールの大会は開催できるのではないかと思う。

・施設整備の際に考えたのは、テニス大会の場合はテニスコートが最低12面必要。陸上競技場は全天候型で公認を取ろうと計画した。

・滞在型の大会とのことであるが、競技種目にもよる。県体協に施設を作る計画があるので、完成した際には大会を開けないかと働きかけを既に行っている。

・六戸、東北町では合宿施設を整備し、子どもたちが合宿を行うなど進んだところもある。

・平川市の財政規模で、どのくらい整備できるのかを考えないといけない。財政規模に合った、またその中で良い施設を作らなければならない。整備するということは、市民の方の税金が投入されることとなる。青森市や弘前市に肩を並べるような施設は作れない。

○防災無線について

(市民からの要望、質問)

放送が全然聞こえない。聞こえるようにできないか。家の中では、全く聞こえない。

(市民からの要望、質問)

風向きにより聞こえない箇所がある。スピーカーの向きを変えて欲しいと要望したが、変えたものか。

(市の回答)

- ・非常時に備え、毎日チャイムを鳴らしている。
- ・放送については、何回か繰り返して欲しいとの声もある。聞こえにくいというのは、家の機密性のこともある。
- ・防災無線は、設置する段階で業者の方でテストを行い、全域に聞こえるということで現在の場所にスピーカーを設置した。音量が高すぎるとの苦情も来ている。
- ・音量は緊急時「大」での放送となるが、普段は「中」で運用している。

○要支援者への対応について

(市民からの要望、質問)

要支援者の把握のため、一人暮らしの人、高齢者のみの世帯などの調査を市から依頼され町会内を回った。一人暮らしの人などに何かあった場合、行政ではどのようなことをしてくれるのか。ほのぼの協力員の方とも話し合いながら、見回りを行っているが限界がある。地域の人にも協力してもらわないとできないと思う。台風等の災害があっても、地域任せであると感じる。

(市の回答)

・災害などがあつた場合に支援が必要な方の名簿は作ったが、個人情報への取扱いや運用体制の整備があるので、もう少しお待ち願いたい。

○除雪について

(市民からの要望、質問)

除雪で交差点の角のところに雪を積んでいくが、危険であり積まないで欲しい。以前、土木課に排雪をお願いしたことがあるが排雪はできないとのことであった。

除雪をした後の道路が凸凹で、通行に支障がある。除雪後の状況を市でパトロールしているのか。

(市民からの要望、質問)

除雪は何時頃に出動する契約となっているのか。夜、除雪に回り、朝方に降雪があると困る。

(市の回答)

・排雪は基本的には行っていない。寄せた雪が歩道に倒れそうな箇所や交差点で見通しができない場所については排雪を行っている。どうしても危険であるという場合には、土木課に連絡をいただきたい。

・除雪が始まる前に、委託業者を集め技能講習会を行い、意思統一を図っている。オペレーターの方の技量などもあると思う。除雪状況が悪いようであれば土木課に連絡をいただきたい。

・市内全工区をパトロールすることはできない。物理的に無理である。

・出動する時間帯については、業者に任せている。朝の出勤時に雪がないように、時間帯を考え除雪に出ている。

・10cm積雪がある場合、また予報で10cm以上の降雪が見込まれる場合に業者に出動するようにとの基準はある。これまでの懇談会で、雪が積もっていないのに除雪に出ている、また、積もっているのに除雪に来ないなどの苦情が出ていた。予報で雪が降ることから出動したが、実際は降らなかったということもある。

・工区によっては、夜回る所、朝回る所がどうしても出てくる。今年から45工区だったものを49工区と増やし、除雪対応をしている。

・市民の方に、できるだけご迷惑をかけないように指導していく。

・除雪は市で業者に委託しているのだから、市が指導をきちんとやらないといけない。危険な箇所に雪を積むのは止めないといけない。子どもたちのことを考えた場合、危険な場合は排雪もやらないといけない。

・お年寄りの方の家の前にある雪には、皆さん困っていると思う。一人暮らしの方、お年寄りだけの方の家については、地域で把握していると思う。コミュニティのお金を使いながら、できれば地域で最低限、出入りできるようにしていただきたい。自分で動ける人は自分で、できない人は地域で対応をお願いしたい。

・地域でできることは地域で、どうしてもできないところは行政でというような地域づくりをしていきたい。

・全てを行政で対応することはできない。ご理解願いたい。

○政務調査費について

(市民からの要望、質問)

平川市議会議員には、政務調査費はあるか。

(市の回答)

・平川市では、最初から政務調査費はない。

○ふるさと納税について

(市民からの要望、質問)

平川市のふるさと納税の状況を教えてほしい。

(市の回答)

- ・ふるさと納税の制度が始まったころは、年間 20 件ほどであった。最近は年間 7、8 件である。
- ・どのようにすれば、納める方が増えるのかを検討している。
- ・納めていただいた方には、納付金額に応じ市内の特産品を送っている。
- ・平川市の宣伝になるような物産を送るよう検討しているところである。
- ・平川市出身者でなくても納めることができる。できるだけ多くの方に納税していただきたい。今年から納税していただいた方には、米、りんごを贈る予定。
- ・他県では 2 億円くらい納税がある自治体もある。そのような自治体は、牛肉やカニを送っている。
- ・全国に平川市をアピールするチャンスである。少しずつでも納めていただく方を増やしていきたい。

○青系 187 号について

(市民からの要望、質問)

青系 187 号を 10 町歩ほど市内で植えている。来年以降、作付面積が増えていくと思うが、特 A となるよう願っている。

(市の回答)

- ・大光寺の滝本生産組合で種を生産している。来年は県内で 1,000 町歩を植えつけられるくらいの種ができると聞いている。
- ・つがるロマンも一反 8 俵くらいの収量であれば、おいしい米である。多収としなければおいしい米である。

○ごみ袋について

(市民からの要望、質問)

ごみ袋の織り方が前と変わり、町会名、名前を書く欄が内側に織られている。今後は表面にくるようにしてほしい。

(市の回答)

- ・記載するところが表面にくるように業者に指示をした。記載箇所が内側にあるものを悪い例として渡したところ、業者が誤って悪い例を参考にして作ってしまった。今後は、このようなことがないようにする。

○在宅医療について

(市民からの要望、質問)

平川病院がなくなり診療所となった。施設入所の待機待ち、健康づくり、保健、介護、福祉の点では、体制ができてくると思う。地域でまちづくりをしていくという点では、在宅医療のサポートも欠かせないと思う。



市内では須藤病院、櫛引医院で在宅医療の支援をしてくれている。平川診療所の体制が現状のままの体制で良いとの考えかお聞かせ願いたい。

(市の回答)

・平川病院が診療所となり、現在2名の医師の体制である。保健、医療、福祉、包括的に取り組んでいくことで、健康寿命、平均寿命も延びてくると考えている。

・人口10万人当たりの医師数を見ると、全国平均で210名、青森190名、五所川原で170名、むつで100人以下の中にあって、中弘南黒では230名の医師数である。民間の開業医が多いのが現状である。

・弘前市を中心として、緊急病院を7医療機関で回している。弘前市立病院を新しく建て替えるなかにあって、2次救急の対応をどのようにしていくのか、広域での協議が始まっている。

・在宅医療については、改めて調べてからお答えをしていく。介護についても在宅で対応していただくとしており、医療のあり方についても考えていかないといけない。

・次の第6次介護保険計画では、要支援を地元に戻すということがある。また、包括ケアということで、いろいろな面を市町村でサポートしなさいということを国が提言している。その中で核となるものが在宅医療である。医師不足の問題があるが、クリアしていかなければならない課題である。